

三池炭鉱旧万田坑施設が 世界文化遺産国内暫定一覧表に 掲載決定！

平成20年9月26日に文化庁で行われた文化審議会文化財分科会において、当市の三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設（万田坑）を含む「九州・山口の近代化産業遺産群 非西洋世界における近代化の先駆け」が、世界文化遺産国内暫定一覧表に掲載されることになりました。



三池炭鉱旧万田坑施設

世界遺産とは
世界遺産とは、ユネスコ加盟国が採択した「世界遺産条約」に定める人類全体にとって貴重な顕著で普遍的価値を有する財産で、自然及び文化遺産（或いはその複合遺産）とに区別されます。世界遺産になるということは、ユネスコの世界遺産

一覧表に掲載されることをいいます。

「九州・山口の近代化産業遺産群」とは

このたび国内暫定一覧表に掲載された「九州・山口の近代化産業遺産群」は、九州5県（熊本・福岡・佐賀・長崎・鹿児島）と山口県の11市にある22の産業遺産によって構成されています。

日本は幕末に西洋技術を導入して以降、非西洋地域で初めてかつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げましたが、これは世界的にも特筆されるべきことです。このめざましい発展の大きな原動力となったのが、古来海外への窓口として外国の文化や技術を受容する最前線の役割を担っていた九州・山口という地域です。

この遺産群は、日本が自力によって近代化を果たし、積極的に技術導入をおこない、国内外への石炭需要にこたえ、重工業へ転換を果たしたという四つの要素で構成されており、日本の近代化を支えたことを示しています。

万田坑の価値と位置づけ

万田坑跡は三井三池炭鉱の施設として、明治・大正期のものとして現存する最大級のもので、三池炭鉱社の当時の最高の技術力を結集して開設され、優れた技術を伝えていることから平成10年に国の重要文化財に、採炭・選炭・運炭という炭鉱のシステムが分かる施設であることから平成12年に国の史跡に指定されました。炭鉱施設としては初の史跡への指定で、国内の産業遺産としては既に高く評価されています。

今回の世界遺産国内暫定一覧表の登録に関しては、国内外の石炭需要への対応 という点に

において重要なポイントを担う資産です。

九州・山口の近代化産業遺産群に含まれる資産（地域別）

県	市	資産名
熊本県	宇城市	三角西港
	荒尾市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設
福岡県	大牟田市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧宮原坑施設
	北九州市	官営八幡製鉄所関連施設（東田第一高炉、旧本事務所、旧鍛冶工場、西田岸壁）
	飯塚市	旧伊藤伝右衛門邸
	田川市	旧三井田川鉱業所（竪坑櫓、第一・第二煙突）
佐賀県	唐津市	旧高取家住宅
長崎県	長崎市	小菅修船場跡、旧クラブ住宅、高島炭鉱関係（北溪井坑跡、端島炭坑）
鹿児島県	鹿児島市	旧集成館、新波止砲台跡、旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館
山口県	下関市	前田砲台跡
	萩市	萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所、松下村塾

現在の万田坑

現在万田坑には、年間六千人程の見学者が訪れており、産業遺産への関心の高まりをうかがうことが出来ます。また、写真撮影や絵画のスケッチ対象として、更に映画撮影等も行われるなど、万田坑の魅力は徐々に発信されつつあります。

万田坑というこの貴重な産業遺産の保護と有効かつ適切な活用のために、本市では本格的な保存修理と周辺整備を実施します。

来年の1月からは、第二竪坑巻揚機室と第二竪坑ヤグラなど施設の保存修理事業に着手する予

定です。周辺整備事業としては万田坑へのアクセス道路がすでに整備されました。また、来年度初めには万田坑周辺にインフォメーション施設（仮称）がオープンし、来場された方々の拠点となる予定です。これら保存修理事業や周辺整備事業は、世界遺産一覧表への登録を見据えながら慎重に行います。

世界遺産登録を目指して

万田坑を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」が世界遺産になるための道のりは、容易なものではありません。世界遺産委員会が定める厳しい条件を整え、国内推薦を受けたのち、登録申請書を提出します。これが委員会で承認されて初めて、世界遺産一覧表に掲載されます。

景観の保全とともに、遺産群全体の価値をより明確にし強化するための再調査など、関係自治体により緊密に連携しながら行っていく必要があります。

炭鉱のまち・荒尾の財産として

世界遺産の審査基準は毎回厳しくなる傾向にありますが、実は最も重要な要件の一つとして、地元の理解と総意、そして登録への熱意が挙げられます。

万田坑は、炭鉱のまちとして発展してきた荒尾を

語るために欠かせない、象徴的な施設のひとつであり、荒尾市の大切な財産です。

市としましても、万田坑の有効活用と保存整備を進めると同時に関係自治体と協力し、遺産群をアピールするイベントの開催や万田坑の特別公開なども計画していきたいと考えています。世界に誇る日本の産業遺産のひとつである万田坑を含むこの遺産群が、早期に世界遺産として登録されるよう全力を尽くしてまいります。

このたび国内暫定一覧表に掲載されるまでには多くの方々のご協力をいただきましたが、今後より多くの市民の皆さんのご理解とご協力と熱意を必要することと思います。今後是非皆様のご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

市長のこぼれ

「九州・山口の近代化産業遺産群」が世界文化遺産国内暫定一覧表への追加登録が決定されたことに関して、これまでご尽力された方々に対しまして心より感謝申し上げます。

万田坑施設が国内暫定一覧表に登録されたことは誠に喜ばしいことであり、国内外の近代工業化に関

して一翼を担ったことが高く評価を受けたものと思います。今後、関係自治体との連携を密にし、世界文化遺産登録に向け全力で取り組む所存です。

【万田坑の見学について】見学希望日の一週間程度前までに万田炭鉱館（64-1300/月曜休館）に直接お問い合わせの上ご予約ください。見学者一人につきガイド料200円必要です。（危険な箇所もありますので、ガイドなしでは入場できません。）

【万田坑特別公開】日時：平成20年11月3日（月・祝）午前10時～午後5時 入場：無料

特別公開問合せ先：万田炭鉱館（64-1300）または社会教育課（63-1681）

左の写真は、万田坑とともに「九州・山口の近代化産業遺産」となった資産の中から炭鉱・石炭関係施設を掲載しました。上から：大牟田市の三池炭鉱宮原坑施設、福岡県田川市の田川鉱業所堅坑、同第一・第二煙突、福岡県飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸、熊本県宇城市の三角西港、長崎市の高島炭鉱北溪井坑跡、同高島炭鉱端島炭鉱（軍艦島）写真提供：鹿児島県企画部企画課

